

次世代エネルギー・モビリティ創造特区 [指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(5.0 + 4.8) / 2 = 4.9$

4.9

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	再生可能エネルギー(太陽光、小水力等)の地産地消率の向上	196%	5
2	モビリティの活用によるCO2の削減(運輸部門)	182%	5
3	市域経済の成長	192%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 3 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 5.0$

5.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.8

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 $(4.0 + 3.5 + 4.0) / 3 = 3.8$

3.8

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.5

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

5.0

- ・地域の持つ素地を十分に活かして、ほとんどの指標について目標値を上回る進捗となっている。
- ・エネルギー・モビリティの次世代技術を核とした、地域経済活性化と低炭素な都市環境構築へ向けて、着実に取組を積み重ねている。雇用機会の創出にもつながっている。
- ・モビリティについては近年国際的に大きな転換期を迎えており、それに柔軟に対応できるような取組が期待される。
- ・市民からの評価については定量化しがたい分野であるが、引き続きその妥当な評価手法について検討が望まれる。平成30年度に予定されているエコフルタウンのリニューアルで今後も市民意識向上への寄与が期待される。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

5.0

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.9 + 3.8 + 5.0 \times 2) / 4 = 4.7$

4.7

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。